

東成瀬

図書館だより

2018. 2月号 No.31 発行 東成瀬公民館図書室

〒019-0801
秋田県雄勝郡東成瀬村田子内字上野8-1
TEL 0182-38-8711 FAX 0182-38-8712
E-MAIL narusejidoukan@carol.ocn.ne.jp

☆3月の特集☆

〈一般書〉 ☆「若い人に贈る読書のすすめ2018」
成人・卒業 新たな一歩を踏み出したフレッシュなあなたに

〈児童書〉 ☆「絵本週間によせて」

★新しい本の紹介★

一般書

銀河鉄道の父(第158回直木賞受賞作品)
百年泥 (第158回芥川賞受賞作品)
星に願いを、そして手を
走狗
キャスターという仕事
これを知らずに働けますか?
まねる力
女の子が生きていくときに覚えていてほしいこと
「どうせ無理」と思っている君へ
知らなかった、ぼくらの戦争
僕らが毎日やっている最強の読み方
叛徒
いのち

門井慶喜
石井遊佳
青羽 悠
伊東 潤
国谷裕子
竹信三恵子
斎藤 孝
西原理恵子
植松 努
アーサー・ビナード
池上彰・佐藤優
下村敦史
瀬戸内寂聴

*この他にも多数取り寄せております。

電話で予約できますのでお尋ねください。

児童書

ラプンツェル
3びきのこぶた
ながぐつをはいたねこ
まちのねずみといなかのねずみ
ナイチンゲール
ぜったいにおしちやダメ?
えがないえほん
おいしそうなしろくま
生きる
ノラネコぐんだんあいうえお

グリム
イギリス民話
シャルル・ペロー
イソップ
アンデルセン
ビル・コッター
B・J・ノヴァク
柴田ケイコ
谷川俊太郎
工藤ノリコ

3月の休館日

4日(第1日曜日)

18日(第3日曜日)

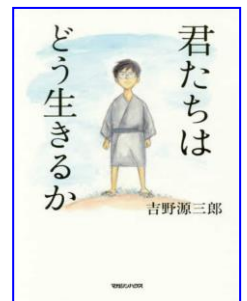
21日(春分の日)

◇今月のオススメの一冊◇

『君たちはどう生きるか』

吉野源三郎／著

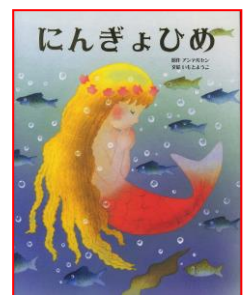
勇気、いじめ、貧困、格差、教養。昔も今も変わらない人生のテーマに真摯に向き合う主人公のコペル君と叔父さん。歴史的名著が、読みやすい新装版で刊行されました。



『にんぎょひめ』

アンデルセン／原作
いもとようこ／文・絵

うみのそこにすむにんぎょひめが、にんげんのおうじさまをすきになってしまう。まほうつかいは「にんげんのあし」とひきかえに、「こえ」をとりあげてしまう。せつなくなかない、うつくしいアンデルセンのおはなしです。



☆図書室利用案内☆

開館時間

午前9時～午後5時30分

休館日

・第1日曜日 ・祝祭日
・第3日曜日
・年末年始

図書の貸出

10冊まで

視聴覚資料

3点まで(DVD・CD・ビデオ)

貸出期間

3週間



*どなたでも利用できます!

★休館日の本の返却はブックポストへ★

◇読みかたりグループ「つくしんぼ」の活動の様子を紹介します！◇

【なるせ芸術文化祭】



「歌でおはなし」の世界を発表しました♪



「どんぐりころころ」のコーラス隊

【さあ・シャベローゼ大会】

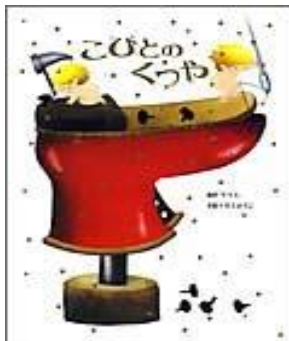


第7回 東成瀬村の方言
「さあ・シャベローゼ大会」
なるせ弁で絵本の紹介をしました！

絵本de「ルー♪♪♪」

なるせ保育園 保育士 半田 昭子さんのおすすめ絵本

「こびとのくつや」 グリム / 原作
いもとようこ / 文・絵

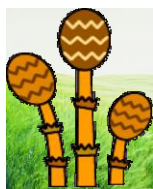


突撃インタビュー

- ・この本をととえるなら？
→ 夢と魔法の世界
- ・本をいつ読みますか？
→ 1人でゆっくり出来る時間
- ・あなたにとって読書とは？
→ 心の安定剤

正直で働き者の靴屋の老夫婦。貧しくなり、とうとう1足分の皮だけになってしまいました。夜、丁寧に1足分の靴の形に切っておき、次の朝ゆっくり作るつもりだった。ところが、朝起きてみると、みごとな靴が出来上がっている。その靴が高く売れ、次の日は2足分、また次の日は4足分と、朝になるとどんどん増えて靴は出来ている。靴を作っているのは・・・？
夢のような楽しい一冊です。ぜひ読んでみてください。

ありがとうございました♪



読みかたりグループ 「つくしんぼ」コーナー 東成瀬村図書館ボランティア

ひなまつりおはなし会
3月3日(土)
午前10:30~11:00

会員 佐々木 典子さん

会員のつぶやき

会員 備前 早苗さん

悩みのない人はいないと思いますが・・・
心が健康とは言えない状態だと感じている今日この頃。癒やしを求めてグッズを探してみたり、迷走を続ける毎日です。

そんな時に見つけたこの一冊。中国の古典「菜根譚」をわかりやすく編集された名言集です。愛らしいイラストと丸みのある文字で綴られていて、心がほっこりあたたかく、前向きになれるメッセージブック。心が疲れた時に是非手にとってみてください。

「みんなのたあ坊の菜根譚」

辻 信太郎 / 著



児童館には、時々、赤ちゃんがあそびに来ます。学童クラブの子どもたちは、赤ちゃんが喜びそうな絵本を見つけてきてみせたり、変顔をして笑わせたり、赤ちゃんが反応して笑うと自分たちも嬉しそうにしています。兄妹姉妹が少なくなった今、こんな自然な関わりが、とても微笑ましく大事に感じられます。

これからも、村の子どもたちが、色々な人や絵本との触れ合いを通して、心豊かに育っていくことを願っています。

